

NEUTRAL 通信 vol.10

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」という NEUTRAL のコンセプト実現に向け、NEUTRAL 通信を発行しています。第10回目は現在 EXTRA-NEUTRAL にて館内各所に作品を展示する清水紗希さん。NEUTRAL 通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

「街をあるく」

2023.9.2sat. - 9.24sun.



造形作家

清水 紗希 / SAKI SHIMIZU

1992年 石川県金沢市に生まれる。2015年 京都嵯峨芸術大学（現・嵯峨美術大学）芸術学部 デザイン学科 イラストレーション領域 卒業。その後も京都を拠点に活動をしている。針金を用いて「街」をテーマとした作品を制作する。〈Afternoon Tea〉×〈Lib Work〉の協業ハウスブランド【Afternoon Tea HOUSE】のビジュアルアートを制作するなど企業とのコラボレーションも行っている。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE



SHOKODO
KYOTO

NEUTRAL

Gallery PARC
GRAND MARBLE

『Casa BRUTUS 9月号』で「こどもの本100」が特集されています。『エルマーの冒険』や『スイミー』など著名な作品から、ショーン・タン『アライバル』、ミロコマチコ『みえないりゅう』など最近話題の絵本まで幅広く紹介されています。1階レジ前平台では、本書で紹介されている絵本から数点おすすめの絵本を販売しております。ぜひ雑誌と合わせてご覧くださいませ。

営業時間：10:00～22:00 TEL：075-431-5551

毎週金曜日、土曜日スローページ酒場開催中です。スタッフおすすめはカニクリームコロッケです！あつあつなのでやけどにはご注意くださいね。お1人様も大歓迎なのでぜひお気軽にご来店下さいませ。

営業時間：8:30～23:00 TEL：075-431-5551

堀浅吉漆店、修美社、吉勝制作所、SPCS が共同でナチュラルインキの開発と実験のプロジェクトをスタートしました。不安定さを肯定的に受け入れるデザインで、新しい工業/工芸の形を探究します。今回は活版印刷機で仕上がった漆メディウムのサンプルカードを昌幸堂で配布しております。ご興味のある方はお気軽にお声掛けください。

営業時間：10:00～18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

ほんとは、
京都工芸繊維大学中野デザイン研究室アーカイブ展
2023.09.02sat. - 2023.09.24sun.

京都精華大学 × 大垣書店 じぶん旅マップ展
2023.09.02sat. - 2023.09.24sun. (最終日は17時まで)

営業時間：10:00～19:00 TEL：075-431-5537

microcosm 菅かおる
2023.09.02sat. - 2023.09.24sun.
営業時間：13:00～19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休



〒602-8242 京都府京都市上京区毘叟町287
[アクセス]
○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分
○京都市バス9番・12番・50番・67番系統
「堀川中立売」バス下車徒歩1分
○駐車場・駐輪場あり
※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ



Instagram



お問い合わせはHPまで



——子ども時代のことをお聞かせください。

富山と石川の県境あたりの生まれで、小さい頃はそんなに人のいる環境ではなかったので自然の中で遊んだりしていました。手作りのブランコを作って遊んだりとか山の中を探検したりしていました。絵を描くことも好きでした。美術部に入りたかったのですが、中学校の時は美術部が無かったので、高校に入って美術部に入りました。絵を描くことは好きだったのでずっと続けていて、もっといういろいろやりたいと思ひ芸大進学を決めました。芸大ではデザインを専攻してグラフィックやビジュアル系のゼミで学びましたが、イラストで描くというよりはいろいろな素材を使って、素材の質感が出るような、引っかかりがあるビジュアルを制作したいと思っていました。4年生の時の卒業制作の時に改めて何をしたいか考え、針金を使って街を描くということを始めました。

——針金で街を描くことについてもう少しお伺いします。

小学生の頃にA4サイズにひたすら鉛筆やボールペンで街を描いていた時があって、その延長で、当時描いていた街の風景を針金で描くという制作を現在も行っています。基本的にA4サイズをベースに制作しています。最初は単体で独立した作品という意識でしたが、作品が増えていくうちに一個で成立していたものがどんどん繋がりが、広がっていくのが面白いなと思って。現実の街も開発されていく場所があったり、手の付けられていない部分があったりして、そういうリンクも感じています。作品を作り始めた時はイラストという意識が強かったので、線に注目して見てもらいたいと考えていましたが、初めて作品を展示した時に、照明を当てると（作品の）影が出るということに気づいて、そこから影も含めて作品と意識し始めました。

——好きな作家さんや影響を受けた作家さんはいますか。

小学生の時に街の風景を描くきっかけになったのは花森安治さんです。祖母が持っていた『すてきなあなたに』というエッセイの挿絵に載っている線画に惹かれて、自分でもこういう線を書きたいなと思ったのがきっかけです。安野光雅さんも絵の密度が好きです。美術家やアーティストよりも絵本作家の方が好きな方が多いですね。トミー・ウンゲラーさんの線画も好きですね。

——今回の展示について伺います。

階段付近の作品は、A4サイズの作品を集めて展示しています。大きい作品を作る時も、制約がある方が面白い表現ができるのかなと思って、単体の作品サイズはA4サイズに決めて作っています。あくまでも作品の集合として大きな作品があるという形です。ウインドウの展示は立体物で構成しています。今まで平面で制作してきたので、新しい展開として立体で街や建物を構成していったらどうなるかなと思ひ、いずれは平面と同じように大きな作品を構成してみたいと思っています。カフェの作品は額装の作品です。インスタレーション的な階段やウインドウの展示とは違う雰囲気でもみたらえたらなというのがあって、繋がりを意識せずに作りたい風景を作っている作品です。

——どんな環境で制作していますか。

最初は共同アトリエに入って活動していました。今はアトリエを離れ、自宅で制作しています。作業スペースを分けようと思ひていましたが、結局リビングで制作してしまっています。展示の前は制作に集中して家事が滞ってしまうので、気持ちを切り替えられる場所が欲しいなと思うことはあります。

——展示をご覧になる方に一言お願いします。

今回の展示のテーマは「街をあるく」なので散歩しているような感覚や街中を歩いている感覚で作品に入ってもらえればと思います。作品一つ一つにも個別のテーマはありますが、みなさんの昔の思い出だったり普段の生活で見たり感じた物に当てはめて見ていただければ。



お気に入りの本

『すてきなあなたに』 大森鎮子編著 花森安治装丁・飾絵

『すてきな三にんぐみ』 トミー・ウンゲラー／作